

# 福岡視力 センターだより

第128号



令和7年2月28日

発行 福岡視力障害センター

〒819-0165 福岡市西区今津4820-1

TEL 092(806)1361 FAX 092(806)1365

ホームページ <https://www.rehab.go.jp/fukuoka>

印刷 株式会社エルシープリント



- ある日課 所長挨拶
- 自分再発見  
自立訓練の修了生紹介 市岡智浩さん
- 同窓会創立50周年記念行事  
同窓会会長 楠原宏和氏寄稿
- 給食コラム 食育と郷土料理
- 卒後研修会・障害者週間記念講演
- 塙保己一のおはなし
- 令和5年度国家試験結果と進路状況
- 職員異動・新職員の紹介
- 新たな情報発信  
自立訓練メールマガジンの創設
- 令和6年度卒業生からの言葉
- 利用者募集





所長あいさつ

## ある日課

### 自己紹介

センター所長の東と申します。昨年4月に着任し、今年で2年目になります。皆様方におかれましては、日頃より当センターの運営及び障害者福祉の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

### 支援の現場

昨年も申しましたが、私は、平成4年に厚生省に入省して今年で33年目になりますが、その殆どが霞が関での勤務であり、それゆえに、支援の現場である当センターでの生活は日々興味深く新鮮で、所長に就任して1年半以上が経過した今日においても些かも変わることはありません。

### ブラブラ（ある日課）

私は、所長室でボケ〜っと座っていることが本当に嫌いで、空いている時間があれば極力、所内をブラブラすることを「日課」としておまして、授業中や訓練中の、利用者さんと職員さんの楽しげなヤリトリを拝見したり、利用者さんから、その時々生の声を聞いたり、職員の皆様から、所長室にまで報告に行くほどではない、ちょっとしたプチ情報を教えて頂いたり、と、所長室に居るだけでは絶対にキャッチできない様々なことを把握し、日々有意義に過ごしております。



最後になりますが、職員一同、誠心誠意支援してまいりますので、卒業生、修了生、御家族の皆様及び関係者の皆様には、今後とも御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

所長 東 基幸



### 感謝と尊敬の気持ち

ただ、この「日課」を続けている根底には、  
○利用者さんに対する、様々な選択肢がある中、当センターを選んで頂いたことへの感謝の気持ちや、障害に負けず自らの力で生きてゆくため、あはきの資格取得や日常生活を送る手段の獲得、職場復帰などに向けて努力を重ねていることへの尊敬の気持ち  
○利用者さんの望みに応えるための技術・能力・熱意を持ったプロフェッショナルな集団である職員の皆様に対する感謝と尊敬の気持ちがあり、非常に単純ですが、この人達と仲良くなりたいという気持ちがそうさせている、というのが正直なところです。

### 楽しいひととき

特に、放課後ブラブラして、その日の授業や訓練から解放された利用者さん・職員さんと、たわいもない会話を楽しむのが好きですし、また、利用者さん達が大勢集まる自治会主催のイベントや実技クラブ、スポーツ訓練発表会なども大好きでして、可能な限り顔を出し、仲間に入れて頂くなど、約40年ぶりの学園生活的なものを楽しませてもらってます。



そんなく  
大人げなし、忸度なしで準優勝!!

スポーツ訓練発表会の職員チーム



## 卒業生インタビュー

**工藤 力也さん**

男子ゴールボール日本代表チーム  
ヘッドコーチ

パリで開催されたパラリンピック2024において、ゴールボール男子日本代表が見事に金メダルを獲得しました。その立役者となったのが、当センターの卒業生で、代表チームのヘッドコーチを務める工藤力也さんです。金メダルを獲得するまでの長い道のりや、さまざまな思いを、じっくりうかがってみました。

### センターに入所するまでの経緯や きっかけを教えてください

高校卒業後、バイクの免許を取得するために自動車学校で視力検査をした際に視力が低下していることに気が付きました。その後、大学病院で精密検査をした結果、レーベル遺伝性視神経症と判明。約一年間の引きこもり生活後、市役所の福祉課に視力センターの存在を教えていただいたことが入所のきっかけです。

### センターで過ごした3年間はいかが でしたか？ 印象に残っている思い出や経験を 教えてください

入所前は不安ばかりでしたが実際に入所してみると同じような境遇の方が多く、つらいのは自分だけではないと思うことができ立ち直ることができました。特に目が悪くなったことで球技はもうできないと諦めていましたがグラウンドソフトボールやフロアバレーなどクラスマッチはとても楽しい思い出です。特にライフワークとなっているゴールボールとの出会いは私の人生を大きく変える出会いとなりました。

### センターを卒業して どんな活動を されてきましたか？

卒業後はゴールボール選手として日本代表になりたいという思いがあり、練習量を確保するために

デイサービスでアルバイトをしながら毎日のようにセンターの体育館で練習をしていました。そして2006年に現在の職場であるシーズアスリートへ就職し、2017年まで選手として活動してきました。そして現在は日本代表チームのヘッドコーチとして活動しています。

### センターでの学びや経験から 役に立っていると思うことは ありますか？

視力が低下した当初は『何もできなくなった』と下を向くことばかりでしたが、どのようなことでもやり方を工夫し一歩踏み出すことで、できることがあったり楽しいことがあると学びました。挑戦せずに諦めるのではなく、挑戦の先に可能性があることを学びました。





## ゴールボールとの出会いについて 教えてください

当時の体育教官であった江黒先生にゴールボールをやってみないかと誘われゴールボール部に入部しました。

## ゴールボールの醍醐味や 魅力について教えてください

弱視や全盲といった視力の差があったとしても、アイシェード（目隠し）を装着し視力を頼らずに競技をするので視力の程度に関わらず、だれもが平等にスポーツを楽しめることです。

そして、見えない中でも相手の動きをイメージし作戦を立て得点を取るところが面白いです。

## ゴールボール選手として、これまでの 競技経験などを教えてください

センター卒業後から本格的に日本代表を目指し選手活動をスタートしました。

2008北京、2012ロンドン、2016リオ、とパラリンピック出場を目標に取り組んできました。

あと1勝でパラリンピック出場というときもありましたが、パラリンピック出場という目標を達成できないまま引退となりました。

## ゴールボールのコーチ（ヘッドコーチ） として、これまでの経験などを 教えてください。

引退後はコーチへ転向し、元選手だからこそできるコーチングに取り組んできました。

- ・東京2020パラリンピック 5位入賞  
(男子チームヘッドコーチ)
- ・2022アジアパシフィック大会 金メダル獲得  
(男子チームヘッドコーチ)
- ・2023IBSA World Games 金メダル獲得  
※男子チーム初の自力でのパラリンピック出場  
権獲得(男子チームヘッドコーチ)
- ・2023アジアパシフィック大会 銀メダル獲得  
※女子チーム パラリンピック出場権獲得  
(女子チームヘッドコーチ)

- ・パリ2024パラリンピック 金メダル獲得  
(男子チームヘッドコーチ)



## 今回の金メダル獲得までの 道のりを振り返ってみてください

パリ大会では予選を2連敗からの厳しいスタートとなりましたが、チームは決して落ち込むことはなく『必ず金メダルを取れる!!』と常にポジティブなムードでした。

準決勝では近年勝ったことのない中国との対戦でしたが、大会前から取り組んできた中国対策が実を結び大勝することができました。

ウクライナとの決勝戦は延長戦までもつれ、これまでのゴールボール人生の中で一番緊張と興奮した試合となりました。延長戦ではお守りを握りしめ神頼みをしていました。





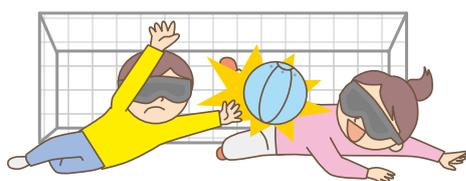
## 金メダルを獲得した感想を 教えて下さい

選手としては達成できなかった目標をコーチという立場で達成することができとても嬉しいです。

また、ゴールボールに出会わせてくれた江黒先生はロンドン2012女子チームが金メダルを獲得した際の監督で、江黒先生の教え子として金メダルを取れたことも感慨深いです。

これまで多くの方に支えられ、家族には合宿や大会でいないことの方が多く大変な思いをさせてきました。多くの方がパラリンピックの試合を見て応援してくれ、一緒に喜んでくれました。

金メダルを獲得し目標を達成できたという喜びはもちろんありますが、金メダルを獲得したことを応援してくれてくれた方と一緒に喜び合えたことが何よりうれしいです。



## 今後の目標や計画は ありますか？

ロス2028パラリンピックでは男子チームとしては2連覇。女子チームはメダル奪還です。

そして、このゴールボールという面白い競技を視覚障害者・健常者関係なく多くの方に知ってもらいたいです。

ゴールボールという競技を通じてスポーツの楽しさはもちろん、共生社会や多様性の理解に繋がっていくと思います。



本日は、たくさんの貴重なお話をいただき、どうもありがとうございました  
工藤さんの今後のさらなるご活躍を期待しています

## 後記



ロンドン2012パラリンピックにおいては、女子代表チームの選手として、当センターの卒業生 小宮さん、浦田さん、安達さんの三名が活躍してみごと金メダリストとなりました。

今回の男子チームの金メダル獲得も、それに引き続く快挙です。

工藤さんは、いつお会いしても体中からエネルギーがにじみ出ているかのような、強い気持ちが伝わってくる方です。こんなパワーが、日本代表チームを率いて金メダルをもたらしたのは間違いないと思いました。

今後も、日本代表チーム(男女とも)の快進撃が期待できそうですね。



## 自分再発見

自立訓練の修了生紹介  
市岡 智浩さん

### 葛藤する日々

私は19歳の頃に緑内障を発症し徐々に視野きょうさく狭窄が進行し、二年前にほとんど見えなくなってしまいました。それからというもの外出や買い物、スマホやパソコンの簡単な操作など生活のあらゆる場面で他人の手を借りざるを得なくなりました。とは言え事実見えないのだから仕方ないと割り切ろうとする自分と、本当に一人できないのか？やろうと努力してないんじゃないかと日々葛藤かつとうしていました。特に妻にはこの行き場のない苛立ちをぶつけてしまうこともあり、余計みじめな気持ちになることもありました。

### センターへの入所

「このままじゃいかん」と思い悩んでいた時に知り合いから自立訓練施設の話を聞きました。私はやるなら今だと決心し、家族と離れ四ヶ月間の入所生活を始めることにしました。センターに入所してからまず与えられた課題は広い館内の地図を頭に叩き込むことでした。私はほぼ全盲なので視覚的な手がかりが一切なく、何度も何度も館内を歩き、時に迷子になりながら頭の中で地図を作っていました。そこでまず実感したことは「本気になればできるようになるんだ」ということでした。館内を一人で動けるようになった私は体育館に筋トレをしに行ったり、息抜きに軽音楽室に行ったり、自販機にお茶を買いに行ったりできるようになりました。目が見えていた頃には当たり前だった好きな時に好きな所へ行くということがこんなにも嬉しいものかと感激しました。

### 一人で歩けるようになりたい

訓練については音声のみによるパソコン操作や視覚障害者用アプリの使い方、点字の読み書きやロービジョントレーニングなどどれも社会的自立に必要なものばかりでしたが特に印象に残っているのはやはり歩行訓練でしょうか。私が自立訓練を受けようと思った大きな理由の一つに、一人で歩けるようになりたいという思いがあったからです。

### 自分再発見

最初は室内で白杖をひたすら左右に振る練習から始まり、徐々に安全なセンター敷地内から交通量の多い街中へとステップを踏んでいきました。もちろん指導員さんが付いてくれているとはいえ見えない中音と白杖から伝わる感覚だけで街中を歩くのは想像以上に神経をすり減らします。私は訓練が休みの日も恐怖感と戦いながらも一人で歩く練習を続けました。そんな時にふと目が見えない自分が一人で外を歩いているという現実に驚き、胸が熱くなったのを覚えています。

### 自立へのスタート

最後に将来に不安を抱えて入所してきた私たちに温かい心と情熱を持って指導してくださいました指導員の皆様にも心より感謝申し上げます。そしてどんな時も励まし合い、笑いあった自立訓練生の仲間と過ごした時間は私にとって宝です。さあこれからが自立への本番のスタートだ！

# 同窓会結成50周年記念行事

同窓会会長 楠原宏和氏寄稿



会員相互の融和と親睦を図ると共に、学術の向上及び福利厚生等に寄与する事を目的として、1974年に結成された福岡視力障害センター同窓会は、結成50周年の節目を迎えることとなり、昨年11月17日、福岡東映ホテルに於いて同窓会結成50周年記念行事を開催しました。

当日は、福岡視力障害センターの東所長をはじめ7名のご来賓をお迎えし、今回は会員のみならず、現職員、元職員の恩師の先生方にもご案内を致し、11名の先生方のご出席いただき、北は埼玉県、南は鹿児島県奄美大島から会員55名の方々のご参加され、付添いの方々、ボランティアの皆様、総勢107名もの皆様のご出席のもと、元教務課教官の前田先生の司会進行により、午前10時30分から記念式典が始まりました。



▲楠原同窓会会長の挨拶

式典後、記念講演会に、日本視覚障害者団体連合の竹下義樹会長をお迎えし、弁護士になるまで

のご苦労や、視覚障害者を取り巻く現状などについてお話をいただきました。

講演会後祝賀会が始まり、卒業生の田里友邦さんによる琉球三線の披露があり50周年に華を添えていただき、祝宴では、元職員の郡山潤子先生や江黒直樹先生のテーブルスピーチ、参加者全員の自己紹介、抽選会など大変盛り上がり、時間を超過して終了しました。



▲卒業生 田里友邦さんの琉球三線演奏

今回は、50年前の卒業生から、今年卒業した方まで幅広い年代の会員の方々のご参加され、また、センターの職員の皆様と一体になっての行事を開催することができ、「ああ、我が古里福祉村 国立福岡、我らかな」こうした気持ちで記念行事を終えることができました。

終わりに、この行事の開催にあたりご後援を賜りました、福岡視力障害センター所長をはじめ職員の皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

## 給食コラム 食育と郷土料理

当センターの給食は、炊きたてのご飯にお汁物、季節の野菜や果物をふんだんに使用しています。

また食育を通して知識を深め、健康的な食生活を送ってほしいとの願いから毎月19日の「食育の日」には、各都道府県の郷土料理を提供しています。

郷土料理には長い時間をかけてつちかわれた、健康をはぐくむ先人の知恵がたくさん詰まっています。地域の気候風土や伝統も色濃く反映されており、食育を通じて歴史や文化を学びその価値を次世代に伝えることができるでしょう。

郷土料理をたくさん食べることは、地元の食材の

消費が増えるので地域経済の活性化にも貢献します。つまり地域の絆を深め、持続可能な食生活の実践にもつながるのです。

ここ福岡県の郷土料理といえば「筑前煮」「もつ鍋」「かしわごはん」「おきゅうと」「水炊き」「ごぼう天うどん」などが有名です。どれも地元の食文化を象徴する料理ですので、機会があったらぜひ試してみてくださいね。



◎当地以三鶏一鶏飯(鹿児島県)



# 卒後研修会・卒後特別研修会 及び記念講演

今年度に実施した研修会(卒業生向け)・講演会についてお知らせいたします



## 01 | 令和6年度 第44回卒後研修会

本研修会は、卒業生に対する支援の一環として、同窓会の協力の下で研修会を開催し、広く理療師として必要な知識や技術の向上を図ることを目的としています。今回は、9月1日(日)に「痛みの評価から考える慢性腰痛に対する新たなアプローチ(一地域に求められ貢献できるあはき師をめざして)」をテーマに、

筑波技術大学保健科学部准教授の近藤宏先生をお招きして開催いたしました。慢性腰痛に悩まされている方は非常に多く、あん摩マッサージ指圧、はり及びきゅう施術の対象となることも少なくありません。また、慢性腰痛は社会生活に様々な影響を与えていることも報告されています。本研修会は、施術者として地域に求められ貢献できるあはき師をめざすうえで充実した研修会となりました。

## 02 | 令和6年度 卒後特別研修会

本研修会は、卒業生に対する支援の一環として、臨床技術及び関連知識を修得するとともに、地域のリーダーとなりうる理療師の育成を目的としています。今回は、10月20日(日)に全体テーマを「鍼灸の魅力再発見～最小の刺激で最大の効果を～」と設定し午前・午後の2部に分けて開催いたしました。午前は、「温め

るセルフケアのすすめ」として、せんねん灸発売元セネファ株式会社営業管理部次長森澤孝次郎先生をお招きいたしました。午後は、「鍼灸師にできるプライマリケア」、実技「鍼1本で変化を起こす」として、賀久総合鍼灸所院長・大牟田鍼灸マッサージ師会会長の賀久哲也先生をお招きいたしました。テーマ設定にあるように、鍼灸の魅力を再発見するとともに、奥深さを学ぶことができる充実した研修会になりました。

## 03 | 令和6年度 障害者週間記念講演

本講演は、障害者週間に合わせて、全利用者・職員を対象に講演会を実施することにより、視覚障害者への理解を深めるとともに、利用者の日常生活や訓練に対する意識の向上を図ることを目的としています。今回は、12月4日(水)に「支援する側とされる側の立場を経験してわかった共生社会の在り方」をテーマに一般社団法人日本心のバリアフリー協会代表理事杉本梢様をお招きいたしました。この講演では、①視覚障害者として生きるということ、②日本心のバリアフリー協会立ち上げ、③共生社会の在り方について、

視覚障害当事者の立場から御講演いただきました。聴講者は、同じ視覚障害者として共感できることや心のバリアフリーが充実していくことで、より良い共生社会が作られることを実感することができました。

以上のように、当センターでは利用者さんのみならず卒業生及び職員を対象に研修会・講演会を実施しています。通常の訓練に加えて、卒後支援の充実や障害者理解を深めることは当センターの重要な役割であると考えています。



利用者と  
握手する  
杉本講師





はなわ ほきいち  
**塙保己一**のおはなし

**点字がない時代**

1825年にフランスで発明された点字が日本に伝わったのは、明治時代でした。それまで、日本では盲人が自分一人で本を読む方法はなかったのです。本を読もうと思ったら、必ず誰かに音読してもらう必要がありました。

そんな江戸時代後期に、一度聞いただけで、その本の内容をほぼ完璧に覚えてしまうという驚異的な集中力と記憶力を駆使して、学者として大きな足跡を残した盲人がいたのです。それが塙保己一でした。

**生い立ち**

塙保己一は、1746年に現在の埼玉県本庄市に生まれ、7歳のときに失明、11歳で母を失います。そこで保己一は単身で江戸に出て、<sup>とうどうざ</sup>当道座(当時の盲人組織)に身を寄せ、<sup>ま はりきゅうおんぎよく</sup>あん摩、鍼、灸、音曲などの修行にはげみますが、どれも上達せず苦勞したようです。絶望して自殺未遂を図ったこともあったと伝えられています。

そんな保己一に対して師匠は「あと3年は面倒をみるから、自分が好きなことをやってみなさい。」と、学問の道に進むことを認めます。

当代一流の学者などに学びはじめた保己一は、その才を認められてめきめきと頭角をあらわし、学者への道を歩むことになりました。

<sup>ぐんしょるいじゅう</sup> <sup>へんさん</sup>  
**群書類従の編纂**

保己一は学者としても組織人としても、多彩な業績を残した人ですが、特に現在まで大きな影響を与えているのが「群書類従」666冊の編纂刊行事業です。

この事業は完成に40年の歳月を要した、一大プロジェクトでした。日本国内で手に入る政治、制度、歴史、文化、文学などあらゆる分野の文献を集大成して、誰にでも読める形で出版し、後世に伝えるというものです。版木1万7千枚以上が、200年以上を経た現在も印刷できる状態で残されています。(いまでも(社)温故学会に申し込むと、刷りたてが購入できます。)

当時の文献は、多くが人の手で書き写された写本でしたので、誤記や欠落なども多々あったようです。そのため、複数の写本を読みくらべたり、関連する文献を参照したりすることによって、より正しい記述内容を推定することが必要でした。万卷の書物に通じた保己一ほど、この作業にうってつけの人はいなかったでしょう。

現代の学問レベルからみても、この校正作業の精度はかなり高かったと思われます。たとえば、岩波文庫の「王朝漢詩選」という本では、群書類従の記述をテキストとして採用しています。

**ひとがら**

保己一にはいろいろな逸話<sup>いつわ</sup>が残されていますが、もっとも有名なのはこれでしょう。

ある夜、保己一が弟子たちに源氏物語の講釈をしていたところ、突風が吹いて行灯の火がみんな消えてしまった。

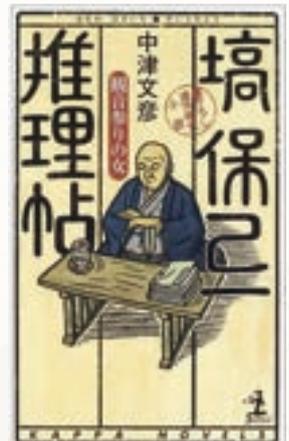
室内は真っ暗で何も見えない。

それでも、なにごとみなかったように講釈を続ける保己一。弟子たちは「先生、お待ちください。灯りがみんな消えてしまいました」と言うと、保己一は「やれやれ、目あきというのは不便なものだなあ」と笑った。

保己一の気さくなひとがらは、こんな逸話からもしのぶことができます。

中津文彦さんの小説シリーズ、「塙保己一推理帖」では、そんな保己一のいきいきとした姿が、江戸の風俗人情とともによく描かれています。とても面白くて読みやすいので、おすすめです。

(残念ながら絶版のようなので、図書館や古書店などで探してみてください。)



中津文彦著  
塙保己一推理帖 (光文社)



# 令和5年度 国家試験結果と進路状況



## 国家試験結果

第32回あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師国家試験での本センター並びに全国結果については以下のとおりです。

### 【福岡】新卒

### 【福岡】既卒

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あん摩指師	6	6	100.0	4	0	0
はり師	6	4	66.7	4	1	25.0
きゅう師	6	4	66.7	4	1	25.0



### 【全国】新卒

### 【全国】既卒

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あん摩指師	1,001	929	92.8	108	3	2.8
はり師	3,213	2,756	85.8	963	136	14.1
きゅう師	3,213	2,770	86.2	898	117	13.0

### 【自立支援局各センター】合計

### 【全国】合計

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あん摩指師	23	15	65.2	1,109	932	84.0
はり師	28	12	42.9	4,176	2,892	69.3
きゅう師	29	13	44.8	4,111	2,887	70.2

## 進路状況

令和5年度卒業生の進路状況については、以下のとおりです。

進路	人数(人)
就職	3
就労活動 継続中	1
臨床研修 コース	1
自宅学習	1

## 職員の異動

**転出** 令和6年3月31日(別府センターへ)  
山下 庄二(支援課長)

### 転入 令和6年4月1日(国リハより) 小山 奈美(支援課長)

2024年4月から支援課長に着任しました。小山と申します。出身は福岡です。…とってはいますが、幼少期を千葉県木更津市で過ごし、小学校は福岡県内2ヶ所、大分市と計3ヶ所の小学校に通い、中学校でも1回転校(大分市から北九州市へ)しています。大学卒業後は、所沢市、伊東市、那須塩原市、函館市と異動を繰り返し、すっかり引っ越しの達人になってしまいました。

久しぶりの福岡県での生活(福岡センターでの勤務は初めて)はなんだか斬新で、楽しく過ごしています。



博多駅のようにすっかり形を変えたものや新しくできたものに驚き、マリノアシティの閉店に時の流れを感じ、豊かな自然に癒やされています。

美味しいもの、流行りものが大好きです。いつでも情報提供、募集中!

どうぞ、よろしくお願ひします。



新たな情報発信

## 自立訓練メールマガジンの創設



視覚障害に関わる幅広いトピックをお届けするメールマガジンがスタートしました！日常生活に役立つ情報、視覚障害スポーツの最新情報や、センター修了生の現在の様子、暮らしに活かせる知識など、多彩な内容が盛りだくさん。これまでの経験をより充実した形で活かしていくためのヒントがきっと見つかります。登録は簡単、この機会にぜひお試しください！

右記の二次元コードを読み取り、メールを開いて

●氏名

●視覚障害の有無

●所属（自立訓練、就労移行支援、その他）

を記載の上、返信を頂ければ登録完了となります。

メールは  
こちらから▶



## 卒業生からの言葉

### 江崎 正芳

5年前に右目を失った。障害者手帳を取得した。会社で正社員から降格させられた。

自分の中では生産性が落ちたなんて現実を受け入れられず、この時に知った視力障害センターは、以前から興味があった整体・カイロ・漢方等を安く学べるチャンスだと思った。

すぐに会社を辞め、右も左も分からないまま理療科に飛び込んだ。

仮初めの楽園での、この歳での学園生活はまあまあ楽しかった。思っていた内容とは少し違ったが、新しい世界を知ることによって視野が広がったし、障害の受容期間にもなった。

だけど此処は何時までも好きなだけ居られるという場所ではない。傷が癒え、力を蓄えたのなら、保護の楽園から飛び立ち社会に復帰しなくては。

国家試験に合格すれば、関門の向こう側にあるスタートラインに立つ。さあ、ここからだ

### K.S

3年間という短い間でしたが、ありがとうございました。入学当初からタップダンス部に入って練習したり、イベントで披露したりして、タップダンスの方々と踊れた事やスポーツ訓練発表会でも学年でチームとして楽しめた事が印象に残っています。

今後は、はり、きゅうの国家資格の取得と就職する事を目標に頑張ります。

### N.Y

3年前の春から今に至るまで、語り尽くせぬほどの濃い時間を過ごしてきました。

クラブ活動や自治会運営を通じ、タップダンスや園芸活動、講師の方を招いてのイベントの企画や地域交流など様々な経験を積み、多くの人との関わりの中で、少しは成長につなげることができたのではないかと思います。

支えてくださった職員の皆様に、心から感謝しています。

### 卒業生へ 送る言葉

慣れ親しんだセンターを離れ、新たな道へ再出発される皆さん、ご卒業おめでとうございます。取得した国家資格を生かし、これからの人生に悔いのないよう、目標に向かって進んでください。乗り越えられない高いハードルは、くぐり抜ければいいでしょう。このような柔軟性も大切ですよ。皆さんのこれからの人生に幸多からんことをお祈り致します。

同窓会会長 楠原 宏和



# 利用者募集

当センターでは、下記の通り利用者を募集しています。

## 提供する施設障害福祉サービス

### 自立訓練(機能訓練)

利用開始日：随時(原則として月曜日) 利用申請受付：随時



#### サービス内容

- ◆ 歩行訓練
- ◆ 日常生活訓練(身辺処理・調理等)
- ◆ 点字訓練
- ◆ ロービジョン訓練(視覚的補助具の紹介)
- ◆ パソコン訓練
- ◆ スポーツ訓練
- ◆ タブレット訓練
- ◆ 感覚訓練
- ◆ その他、教養を高めるレクリエーション等

### 就労移行支援(養成施設)

利用開始日：毎年度 4月上旬 利用申請受付：2月末まで

#### サービス内容

- ◆ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の国家試験受験資格取得に向けた理療教育
- ◆ 学習支援、国家試験対策、就労支援、卒後支援等



#### 主な学習内容

##### ①基礎分野

人文科学概論  
社会科学概論  
自然科学概論 他

##### ②専門基礎分野

解剖学、生理学  
衛生学・公衆衛生学  
病理学、臨床医学総論 他

##### ③専門分野

東洋医学概論、経絡経穴概論  
あま指の歴史と理論  
はりきゆうの歴史と理論  
臨床実習 他

※通所が困難な方に宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

※自立訓練と就労移行支援には、上記のほかに次のようなものも含まれています。

- ◆ 社会的支援、心理的支援、健康管理、食事の提供、栄養指導の実施
- ◆ 評価及び個別支援計画の策定と交付
- ◆ 各種行事の実施、自治会やクラブ等の活動支援

## 利用に関する問い合わせ

サービス利用や利用料等の詳細、パンフレット、「輝く自分であるために」(小冊子)等の送付、施設利用のお申込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

電話 092-807-2844(支援課直通)  
092-806-1361(代表)

Eメール shienka-f@mhlw.go.jp

ホームページ <https://www.rehab.go.jp/fukuoka/index.htm>



ホームページ  
二次元コード

